

平成27年度 御器所小学校 努力点推進計画（案）

I 研究主題 ともに生き合う社会を目指す子どもたちの社会科学習

—社会に関わろうとする子どもが育つ、学び合いの授業を工夫して—

II 研究主題の理由

昨年度まで「生き生きと学習に取り組むことができる子どもの育成」というテーマで、生活科・社会科の学習における有効な指導の在り方について研究を進めてきた。

例えば、教材化については、各学年で、御器所八幡宮、名古屋城本丸御殿などを取り上げ、実践を行ってきた。また、学び合いの授業については、手だての有効性や話し合いの仕方などを様々な実践を通して、明らかにしようとした。どのような授業を組み立てていくか、教師同士が学び合う姿から、より質の高い実践への意欲向上につながってきたと言える。

授業での子どもたちの様子からは、追究意欲をもち、課題解決に向けて、関心をもって調べたり、考えたりする子どもが多く見られた。また、友達と一緒に楽しく学びながら疑問を解決したり、自分の考えをもって話し合い、互いに共有したりして、考えを深め、広げていくなど、友達と「学び合う」ことで、よりよい社会や社会への関わり方を考えたりする姿が見られるようになってきた。これらの子どもたちの学びの育ちを生かして、本年度は、研究主題「ともに生き合う社会を目指す子どもたちの社会科学習」とし、子ども主体の学習の在り方を追究していきたい。

さて、名古屋市では、直面したごみ問題を解決するために、平成10年より、ごみと資源の分別回収を行ってきた。行政・企業・市民が一体となった取り組みの結果、年間40%近くのごみの減量を実現させた。このような取り組みから社会問題を解決し、よりよい社会を形成するには「みんなで力を出し合うこと」「一人一人が主体的に社会に関わること」が大切なことだと分かってきた。直面している数々の社会問題と向き合っていくには、ごみ問題と同じように、みんなで知恵と力を出し合い、新たな考えや仕組みを出し合い、よりよい社会の形成を目指していくことが必要である。こうした目指すべき社会の理想の像を「ともに生き合う社会」とする。

子どもが、ともに生き合う社会の担い手になるには、人々の営みや働きを理解し、社会の一員としての自覚を身に付け、自分だけでなく他の人々と力を合わせていこうとする態度、つまり「協働」の資質の基礎を培うようにすることが大切である。さらに、よりよい社会の形成に向けて、様々な人々と互いに触発し合いながら、社会の出来事に関心をもち続けたり、自分にもできることやみんなでできることを考えたりしようとする態度、つまり「社会参画」の資質の基礎を培うようにすることが大切である。

そこで、私たちが昨年度、テーマに向け取り組み、得られた指導法に対する成果を生かし「社会に関わろうとする子どもが育つ、学び合いの授業を工夫」することで、ともに生き合う社会を目指す子どもの育成を図る研究を進める。

ともに生き合う社会を目指す子どもの姿を「社会に関わろうとする子ども」とし、子どもたちが社会と自分との関わりに気づき、自身の学びを実感し、ともに学び合う姿が見られる研究を行っていく。

Ⅲ 研究の内容

1 基本的な考え方

子どもが社会との関わりを実感するための教材, 子どもが社会の在り方への理解を深める学習過程, 子ども主体の学び合いを引き起こす学習活動を工夫した授業づくりをしていく。

さらに, 昨年度の課題として挙げた点について改善を図っていきたい。教材化では, 昨年度行った実践を, 今一度「身近」「自分ごと」として捉えることができる素材なのか吟味する必要がある。学習過程では, 社会参画を意識するあまり, まとめる段階で, 「自分にできること」や「大切にしたいこと」を子どもたちに無理に考えさせようとする場面が見られた。子どもが調べたことを基に考えることができるような学習過程を工夫していく必要がある。学習活動では, 話し合い活動で「何を, どのように」話し合うのかを見直したり, 聞き合う, 認め合う, 高め合う姿が見られるような話し合い活動であったのかを振り返ったりする必要がある。

そこで, 今年度は, 教材化, 学習過程, 学習活動において, 次の工夫をすることにした。

2 研究の進め方

(1) 研究の重点

子どもが社会との関わりを実感するための教材化の工夫

子どもが社会的事象を「自分ごと」として捉えることができるように昨年度実践した教材を, 以下の3点から見直す。

- 自分の生活との関わりから社会の課題解決の必要性を感じることができる。
- 社会のために努力している人々が協力して課題を解決しようとしていることが分かる。
- 人々の営みの変遷から, よりよい未来社会への関わり方を考えることができる。

このような視点から教材化を見直すことで, 社会への愛着と理解を深めるとともに社会問題の解決やよりよい社会の形成に対して切実感をもって考えることができるようになると思う。

生活科では, 御器所の人・もの・自然が大好きになるように, 学校や学区(まち)への愛着をテーマに, みんなに見付けたもの・ことを伝えたり, 思いを共有したりできるようにする。そして, 1・2年生の間に, みんなが協力し合うことや自分も一緒になって参加することの大切さという, 「協働・社会参画の資質」の基礎を培えるようにする。

- 子どもの身近なものから関心を引き出す。
- 子どもが体験したり, 人・物に関わったりする体験を通して, 気付き, 感じ, 思いがもてる。
- 自分も一緒になってできることやみんなでできることを考えることができるようにする。

子どもが社会の在り方への理解を深めるための学習過程の工夫と

子ども主体の学び合いを引き起こす学習活動の工夫

「社会を見つめる」「社会が分かる」「社会と関わる」という三つの段階(生活科は「計画→準備・実行→振り返り」)を設定し, 事実認識→社会認識→社会参画という問題解決的な学習過程を構成していく。そして, 各段階において, 子どもが社会的事象を「自分ごと」として捉え, 学び合いを引き起こすことができるように, 「社会を見つめる」段階では学習問題を解き明かすための「学習計画を話し合う活動」, 「社会が分かる」「社会と関わる」段階では子どもから生まれた問いを検討し合う「子ども提案型話し合い活動」を子

どもの思考の流れに応じて工夫する。このような段階や学習活動を踏んだ学習を進めることで、人々の営みや働き、協働することの大切さを理解し、「社会と関わる」段階で習得・獲得した知識を生かした話し合い活動が可能になると考える。特に、「社会と関わる」段階では子ども同士が互いの考えやアイデアを聞き合い、互いの考えのよさを認め合い、よりよい考えに高め合うことができる話し合い活動を行っていききたい。

さらに、各学年の実践單元における「社会と関わる」段階の参画レベルを、実践を通して検証・決定していく。以下は、各段階と子ども主体の学び合いを引き起こす学習活動（話し合い活動）をまとめたものである。

「社会をみつめる」段階

【事実認識】

社会的事象に対する疑問を話し合い、学級みんなで明らかにしたいことを学習問題として設定する。そして、学習問題についての予想を基に、調べたいことや調べる方法を話し合うことを通して、一人一人が追究のめあてや追究方法などを決め、学習の見通しをもつことができるようにする。

- 疑問や調べたいことを分類・整理しながら学習問題をつくっていく話し合い活動
- 目的意識を醸成するための追究の視点やめあてなど、学習計画を話し合う活動

「社会が分かる」段階

【社会認識】

追究のめあてに沿って、見学や聞き取りなど具体的に調べ活動を行う。そして、一人一人が調べて分かったことを学級全体で共有・整理したり、学習問題についての考えを話し合ったりすることを通して、社会的事象の特色や意味を考えることができるようにする。

- 子どもが調べたことを検討する話し合い活動
- 子どもの提案をきっかけに、社会的事象の意味を考える話し合い活動

「社会と関わる」段階

【社会参画】

社会的事象に対する見方や考え方だけでは解決できない事実に出会うようにすることで、「～であるのになぜ」「本当に～だろうか」といった新たな問いを設定する。そして、学習したことを振り返ったり、調べ直したりした上で、新たな問いについて考え、話し合うことを通して、社会的事象の特色や意味についての考えを深めたり、社会の一員としての自覚をもったりできるようにする。

- 現在の社会が抱える課題や近い将来のあるべき姿について考える話し合い活動
- 子どもがよりよい社会の在り方や自分の関わり方を検討する話し合い活動

各段階の社会科の話し合い活動の中では、以下のような活動を工夫する。

- ネームプレートや付箋紙、ホワイトボード、ハンドサインなどを用いた相互指名などを取り入れる。また、学級作戦表や意思表示板など、考えを見える化した話し合い活動を取り入れる。

- 「子ども主体の学び合いを引き起こす」学習を行うために「子ども提案型の話し合い活動」を学習活動の中核とする。「子ども提案型の話し合い活動」とは、学級全体で考えの広まりや深まりが期待できる意見や疑問をもっている子どもを提案者として「私は・・・と考えますが、みなさんはどう思いますか」という問い掛けから授業がスタートする。他の子どもは、その発言内容に対して、自分が調べたことを根拠に補足、賛成、反対意見を述べるようにしていく。
- 話し合い活動を行う学習形態（座席）はコの字型、ハの字型を基本とする。
- 単元の終末には、学習したことを基によりよい社会の形成に向けて、社会の出来事に関心をもち続けたり、自分にできること、友達と一緒にならできるようなことを考えたりするような活動を取り入れる。

生活科の話し合い活動の中では、以下のような活動を工夫する。

- 活動や体験から得られた気付きなどを他の友達と伝え合う活動を行い、進んで交流できるようにする。
- 活動を振り返り、表現する機会を設ける。

(2) 研究の方法

(1) 1学期（校内プレ）以前

子どもの実態把握と課題を分析するために、同じ内容の「手だての有効性に関する意識調査」を学年始めと学年末で行い、実態の変容を把握する。そして、実践の成果や課題を明らかにすることで、次年度の研究に生かしていく。

校内プレ（6月）と公開プレ（10月）に向けた事前実践を行うとともに、学級経営を含めた、学び合いの基本的なスタイルを確立していく。

(2) 1学期（校内プレ） ※ 6月24日（水） 澤井先生（文科省教科調査官）来校

- ねらい
社会科での話し合い活動について学びを深めたり、教科調査官から見た大会理論、理論に基づいた授業について意見を聞いたりして、今後の授業づくりの参考にする。
- 授業公開
3年生以上の2学級で、学び合いの学習活動の工夫に主眼を置いた授業を行う。また、三つの段階の違う場面の公開を行う。
- 授業計画づくり
4月から始め、研究協力員の体制が整い次第、助言や協力を得て、授業をつくっていく。該当学年については、学年部会、推進部会等を定期的に行い、授業について事前検討を行う。

○ 事後検討会

全職員参加で、授業後、事後検討会を行う。澤井先生から、授業に対するご指導、社会科の授業づくりについての講演をしていただく。

(3) 夏季休業中

2学期実践を意識し、授業の具体像を描く。平成26年度にまとめられた実践を基に、研究協力員の協力を得て、本時の細案を完成させる。

学校環境整備を行う。

(4) 2学期（公開プレ） ※ 10月31日（土）安野先生（前文科省教科調査官）来校
※ 保護者参観

○ ねらい 大会理論に基づいた実践を行い、学び合いの有効性について検証する。
運営方法の確認と問題点の洗い出しを行う。

○ 授業公開

1・2年生の生活科、そら組も含め、全学級、本番同様な形で授業を行う。

○ 授業計画づくり

4月から始め、随時、協力員と授業について検討する学年部会を行う。平成26年度にまとめられた実践を基に、研究協力員の協力を得て、練り上げた授業を公開する。

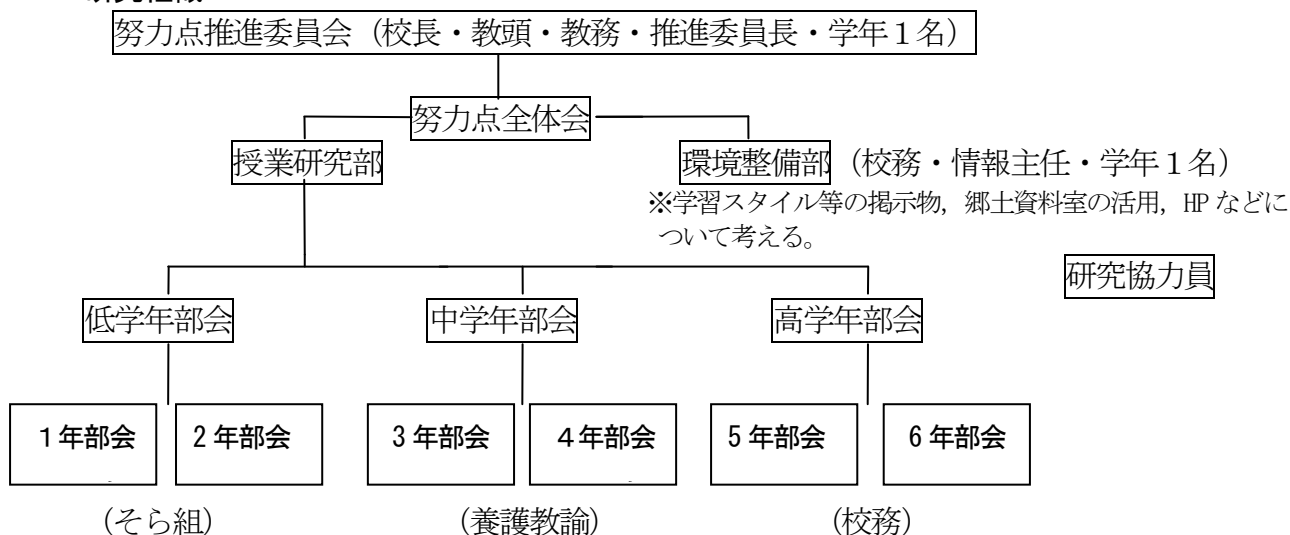
○ 事後検討会

安野先生（元文科省教科調査官）の参観・講演、参加者との事後検討会を行う。

(5) 2学期実践以降

次年度につながるように、成果と課題を明確にした、実践のまとめを行う。研究協力員の協力を得て、改善点を加えた本大会用の指導計画を固める。

3 研究組織



4 年間計画

月	部 会	内 容	研究協力委員
4	・推進委員会…3日(金) ・全体会…13日(金)	・研究方針やねらい等の共通理解 ・研究計画の作成	
5	・学年による検討 ・学年別部会	・1学期実践指導案作成及び検討 ・1学期実践開始 ・実態調査	〈連休明け〉 ・全体会(顔合わせ, 今年度の計画等)・・・20日(水) ・6月プレ実践指導案作成
6	・学年による検討 ・学年別部会 ・校内プレ…24日(水)	・1学期実践指導案作成及び検討 ・全体授業研究模擬授業 ・全体授業及び事後検討会	・6月プレ実践指導案完成 ・参観2学級本時細案作成 ・参観2学級模擬授業
7	・学年による検討	・1学期実践の振り返り (実践の分析、成果と課題) ・2学期実践指導案作成	〈夏季休業中〉 ・全体会(夏季休業中の活動について) ・教材研究の徹底と資料収集 ・公開プレ実践指導案作成
8	・個人及び 学年による検討	・2学期実践指導案作成	・公開プレ本時細案作成 ・公開プレ全時間略案作成 ・授業で使う資料作成
9	・学年による検討 ・学年別部会	・2学期実践指導案作成及び検討	・公開プレ実践指導案完成 ・学年部会(指導案最終確認) ・授業で使う資料作成
10	・学年別部会 ・公開プレ…31日(土)	・2学期実践開始 ・授業参観本時模擬授業 ・授業参観及び事後検討会	・学年部会(模擬授業)
11 ～ 12	・個人及び 学年による検討	・2学期実践の振り返り (実践の分析、成果と課題) ・実践のまとめ原稿作成	・学年部会(実践の進捗状況に合わせて随時相談) ・実践のまとめ(実践の分析:実践の成果と課題)
1	・推進委員会…14日(木)	・28年度研究計画について	・全体会(今年度実践の成果と課題, 次年度に向けて)
2	・個人及び 学年による検討	・実践のまとめ原稿作成 ・実態調査	・学年部会(次年度に向けた課題検討)
3	・全体会…3日(木)	・実践報告(成果と課題)及び 28年度研究計画について	

※校内プレ(6月)と公開プレ(10月)に向けた授業検討会を, 各学年部会で協力員を交えて, 随時行う。

